

2. 平成 29 年度 トピックス

◆ 図書館サポーター、始動

図書館に関心を持つ市民の社会参加の場を作り、市民の視点を取り入れることにより、図書館サービスの充実をめざしている。

平成 29 年 3 月から募集を始め、現在は庄内、庄内幸町、野畑図書館の 3 館で約 25 人のサポーターが活動している。サポーター登録にあたっては事前に研修をおこない、活動内容は資料の修理や寄贈資料のフィルムコーティングのほか、庄内幸町図書館での自習・新聞閲覧スペースの見守りなど。

参加者からは、「図書館にさらに親近感を持った」「日常生活と違った作業をすることを新鮮に感じている」といった感想があった。今後もサポーターと意見交換をしながら取り組みを発展させていく。



サポーター活動のようす

◆ 利倉西センター図書室を開室

～分室・図書室におけるサービス内容の変更～

旧市民サービスコーナーの施設を活用して、平成 29 年 7 月、上津島のバス図書室を利倉西センター図書室に移転した。これに伴い、動く図書館の巡回ステーション 2 か所のサービスを終了。月 1 回の動く図書館の巡回から週 2 回図書室を開室することで、西部地域の住民の利用機会が増え、利便性が向上した。

また、庄内幸町図書館は平成 29 年 11 月より、開館日を週 6 日から週 3 日に変更するとともに、新たに自習・新聞閲覧スペースを設置し、週 6 日の開放を開始した。



移転再オープンを知らせるちらし

◆ 広域利用サービスを拡大

これまで豊能地区 3 市 2 町（豊中市・池田市・箕面市・豊能町・能勢町）および吹田市の一部の図書館の広域利用を実施してきたが、平成 29 年 7 月から吹田市全館・茨木市・高槻市・摂津市・島本町も含めた北摂地区全域の公立図書館や図書室（動く図書館は除く）での広域利用を開始した。これにより、対象地域の住民の利用可能な施設が増え、あわせて約 650 万冊の資料を借りることができるようになった。

平成 29 年度の豊中市民の北摂地区他市町での借出冊数は 53,730 冊であり、箕面市が全体の 62%、吹田市が 31%となっている。一方で豊中市立図書館からの他市町へ借出冊数は 51,495 冊であり、吹田市民が 53%、箕面市民が 31%、池田市民が 10%と隣接する市からの利用が多い。

同時に、庄内図書館では大阪市在住者への資料の貸出を開始した。大阪市民の貸出冊数は 2,242 冊、貸出人数は 666 人であった。

北摂地区 7 市 3 町で
図書館の広域利用がスタート!!

平成 29 年 7 月 1 日
からスタートだワニ!!

650 万冊の本が借りられるようになります

◆ 「歴史的音源（れきおん）」の利用を開始

国立国会図書館配信の歴史的音源が岡町、千里図書館で利用可能となった。専用端末で、1900 年から 1950 年頃に国内で製造された S P レコードなどに収録されている音楽・演説など、約 5 万点の貴重な音源を聴くことができる。

同時に、平成 28 年度に千里図書館で利用開始した「国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス」（資料の閲覧や複写サービス）を岡町図書館でも開始し、利用環境を拡充した。

◆ 外部評価 ～アンケートの実施と図書館評価部会開催～

平成 29 年 8 月の土日を含めた 5 日間、来館者対象のアンケート調査を実施し、利用状況や各種サービスの認知度・満足度などの状況を把握した。

自由記述欄の意見は 500 件を超え、読みたい本や雑誌・AV 資料の充実や図書館の開館時間・休館日に関する意見などが寄せられた。

アンケートの調査結果や「自己点検報告書」などについて図書館協議会図書館評価部会での外部評価をおこなった。評価報告については、図書館 Web サイトなどで公開し、今後の図書館運営に活かしていく。